

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷四第

行發日一月三年六正大

論說

資本	文學博士	內田銀藏
植民地ノ分類ニ就キテ		山本美越乃
支那經濟思想ノ出發點(一)	法文學士	小島祐馬
體質廢頽問題(二)	法學博士	財部靜治
經濟心理學ノ組織的研究(三)		米田庄太郎

時事問題

取引所増資問題	法學博士	戸田海市
米獨斷交ト我經濟界	法學博士	小川郷太郎
毛羊問題	法學博士	神戸正雄

雜錄

經濟雜話(九)	法學博士	田島錦治
米國鐵道從業者八時間勞動問題	法學士	河田嗣郎
露西亞ノ國民經濟ニ於ケル歐洲的要素		米田庄太郎
維新後ノ戶數ト人口トノ關係	法學士	本庄榮治郎
あゝのるどといんびト經濟書	商學士	武藤長藏
佛蘭西財政及經濟學者ばかりゆゝ逝ク	法學博士	神戸正雄

新著紹介

佛蘭西財政及經濟學者

ぼーりゆー逝ク

神戸 正雄

佛蘭西ノ第一流ノ財政經濟學者トシテ、佛國ノ學界ニモ實際界ニモ尊敬ヲ受ケ、佛蘭西ノ代表的學者ノ一人トシテ、世界ノ各國ニ其名ヲ知ラレタル偉人ぼーりゆーるるあぼーりゆーガ一九一六年十二月九日午後三時ヲ以テ此世ヲ去ツタ。彼ハ一八四三年十二月九日ヲ以テ生レタノデアルカラ、恰モ其誕生日ニ永眠シタ譯デ 満七

十三歳ノ長壽ヲ全ウシタ。さうみゆーるニ産レ、巴里、ぼん、伯林ニ學ビ、數年間英、獨、澳、伊、西ノ諸國ヲ歴遊シテ、佛國ニ歸リ、佛國ノ大新聞『たん』ノ記者ヲ以テ其經歷ヲ初メ、一八六七年『勞働者階級ノ道德的及智識的狀態及其賃金率上ノ影響』ト題スル處女作ニコリテ學士院賞ヲ得、六九年ニ雜誌『れびゆーでーどいもんづ』ノ記者トナリ、七〇年ニハ雜誌『じゆるなるでーでば』ノ記者トナリ、七二年ニハ政治學校ノ財政學教授トナリ、七三年ニハ自ラ雜誌『れこのみすとふらんせー』ヲ創立シ、七八年ニハ最高學府これーじごふらんすー彼ノ岳父ニ當ルしぱりえーノ代理ヲ勤メ、八〇年其後繼者トシテ教授ノ榮冠ヲ擔フコトトナツタ。別 七八年以來ハ道徳及政治學士院ノ會員ニ推薦セラレ、露、瑞典、伊、白等諸國ノ學士院ノ會員ニ推サレ、ぼろぐな、えちんばら、だぶりん、けんぶりつち諸大學ヨリ名譽博士ヲ贈ラレタ。彼ハ晩年其一族ニ不幸續キデアツタ。其兄弟ナルあなどーるるあぼーりゆー先ツ逝キ、次 彼自身ノ夫人逝キ、

一九一五年一月えーずんノ戰ニ彼ノ愛息びえーるるろあぼーりゆー亦倒レタ。彼ハ斯クテ其婚ノるのーだんノ處ニ世話ニナツテ居タ。流行性風邪ニ罹リテ僅カニ八日間病床ニ就キタルノミニテ永キ眠ノ人トナリ復タ不歸ノ客トナツタ。彼ハ財政、理論、社會問題、及殖民問題ニ於テ造詣深カツタ。彼ノ壯年ノ著『現代戰爭ノ經濟的歴史的及統計的研究』(一八六九年)ノ如キ、政治學校教授時代ノ著『財政學』(一八七七年)ノ如キ、孰レモ廣ク世界的ニ引用サレ研究サルル名著タルヲ失ハヌガ、これーぢどふらんす就任ノ講演『富ノ分配ニ關スル研究』(一八八一年)及其後間モナキ時ノ作タル『利率ニ影響スル諸原因』(一八八五年)ニ至テハ彼ノ最油ノ乗ツタ作デアル。彼ハ累進稅ヲ斥ケ、官營ニ反對シ、國家社會主義ニモ從ハナイ。然シ又りかるどーノ代代説ヤ、まるさすノ人口法則ニモ其ノ現代ノ實情ニ適用ナシテ反對シテ居ル。人口問題ニツイテハ佛國ノ爲メニ最心配スル一人デ、多産奨勵論者デアル。彼ノ理論經濟學ニ關スル全

體ノ思想ハ一八九五年ニ至テ『經濟學』ナル著書ニヨリ纏メラレタ。而シテ彼ガ最後ニシテ最近ノ作物ハ『財産ノ管理及放資法』ト一九一四年ノ『戰爭』デアル。彼ノ著書ハ無數デアツテ、之ヲ列擧シ盡スハ煩ニ過グル。其論文モ亦限ナク多イ、れこのみすとふらんせー、どいもんづ、でばーニ最多ク出テテ居ル。就中れこのみすとハ彼自身ノ雜誌デアルカラ、此ニハ殆ト每號出テ居ル。彼ガ一八七三年此雜誌ヲ出シタ其時ノ趣意ハ、畢竟當時ハ普佛戰爭ノ後デ、佛國トシテハ經濟上興亡ノ分ルル危機デアツタカラ、彼ハ即チ此雜誌ノ上ニ、當時ノ緊要ナル實際問題ノ適切ナル解釋ヲ示シ、以テ政治家實業家ヲ指導シ、佛國ヲ此危機ヨリ救出シ、却ツテ佛國ノ物質及精神的改造ヲ計ルトイノニアツタ。彼ノ反社會的傾向モ亦故ナキニ非ズデ、彼ハ當時能ク此精神ニテ奮闘シ、又能ク其目的ヲ達スルヲ得タ。少クトモ佛國ハ普佛戰爭ノ創痕ヨ 免ルルヲ得タ。今ヤ佛國ハ再ビ大難ニ遇フタ。此戰後ノ重キ負擔ヲ控エタル佛國ハ、復タ此偉人ノ助言ニ

雜錄 新著紹介

待ツヘキモノガ多カッタデアラウニ、彼ハ此大
戦争ノ終結サヘ見定メズシテ、彼ノ世ノ人トナ
ツタ。幸福ナル彼ヨ、而シテ不幸ナル佛蘭西國

ヨ!!